

## 第6回 府中市総合計画市民検討会議開催結果（要旨）

■開催日時 令和2年10月31日（土） 午前10時～午後0時30分

■開催場所 府中駅北第2庁舎3階会議室

■出席者 53名（公募市民35名、職員18名）

■欠席者 4名（公募市民2名、職員2名）

■出席説明員等

高野市長、大井政策課長、吉本政策課長補佐、岡村政策課副主幹兼行政経営担当副主幹兼総合計画担当副主幹、桜田政策課行政経営担当理事兼総合計画担当理事、大木政策課主査、橋本政策課主任

合同会社 Active Learners 山ノ内氏、米元氏

■傍聴者 1名

■内 容

### 1 報告会準備

（合）Active Learners が資料6-1「第6回府中市総合計画市民検討会議」を使用して市長への報告会に向けた説明をした後、部会ごとに報告会の準備を実施した。

### 2 市長への報告会

○健康・福祉部会（河井氏） では、まず初めに、健康・福祉部会から御報告を申し上げます。

私たちは、人数がおりましたので、検討の経過からまず説明させていただきますと、初めに2つのチームに分かれました。基本施策が7つありましたので、それを3つと4つに分けて2つのチームでそれぞれ見直し論点シートの検討をいたしまして、検討会の第4回、第5回は全員で見直し論点シートを、改めて意見を出し合って見直しを進めてまいりました。

この検討を進める過程におきまして、市の職員の方が会議をちゃんとリードしていただき、また、記録を非常に丁寧に取って各回の見直し論点シートに落とし込んでいただきましたので、私たち市民委員もいろんな思いを伝えたいんですけども、それをきちんと整理して見直しを図ることができ、最終的に委員全員の意見を取りまとめた報告になっております。

個々の見直しの論点につきましては、シートの中に書き込んでありますので、そちらを御参照いただきたいと思います。基本目標検討シートの基本目標の変更についてのみちょっと説明させていただきます。

私たちは、基本目標が「人と人との支え合い幸せを感じるまち」という目標があったんですが、これを「人と人との支え合い誰もが幸せを感じるまち」と

いうふうに見直してはどうかという意見がまとまりました。

この見直しの理由についてですが、制度を知ってもらい、サービスを身近に感じてもらうためにSNS等を活用し、さらなる広報周知をし、何より必要なサービスが必要な人に届くような発信をすることが重要であるということをもみんなで共有いたしました。

24時間、いつでも、どこでも相談できることを目指してもらいたいという思いがあります。より多方面からの支援・相談体制の確立のために、地域の力を活用したサポート体制と新たな地域コミュニティづくり、活動しやすい環境づくりが必要になっていると考えます。

子どもから高齢者まで多世代間の交流、交わりの中で、地域でのつながり、支え合い、サポート体制を確立し、強化していくことで、誰もが取り残されずに一人一人が活躍し、幸せを感じられるまちとなると考えました。

そのほかには、地域課題の解決のためには、地域を支える担い手が必要であり、その実現のために企業、大学、自主グループ等の力を最大限に生かした協働のまちづくりが欠かせないと感じます。

私たち市民委員は、それぞれ様々なバックグラウンドを持っておりました。民生委員であったり、退職した校長の方であったり、助産師さんだったり、いろんなバックグラウンドを持っていて、それぞれが現場で感じていることを意見を出し合いましたので、それに基づいて、やっぱり府中市内にはすごく力を持っている人がたくさんいると、それを人為的に結びつけるということが、これからの市民協働の中には大変必要なことだというふうに感じております。

また、協働で実現のためには、コーディネートする人材育成と関係機関との連携が必要となりますが、それに加え、連携を可能にするための中間的な支援も必要であるというふうに考えています。

人として尊厳を持って生きていけるような取組を早い段階からずっと継続して行うことが重要である。例えば、性の問題についても、小さいころからずっと継続して学校教育だったり、家庭教育だったり連携して進めていくことが重要であるというような意見交換がされました。

最後のほうでは、市の職員同士も連携していくことが大事だよ、というような話もしてまいりました。

私たちいろいろ議論を深める中で、市の総合計画ですが、私自身にとっての総合計画、この計画にどう向き合うかということを考える私自身にとっての総合計画でもありました。どうもありがとうございました。

○生活・環境部会（林田氏） どうも皆さん、おはようございます。我々生活・環境部会は、市の職員4名を含めてトータル11名、その中には若い学生です

ね、今回大学生が2人入って若い意見をいろいろ聞いて、非常に活発な、楽しく5回、いろいろディスカッションやらせていただきました。

その中で出た主なポイントを今日これからまとめて、若い彼にも説明していただきたいと思います。

我々の基本目標は、「安全で快適に暮らせる持続可能なまち」というのがもともとの基本目標でした。我々が5回にわたっていろいろディスカッションしていく中で、どうだろうということで、前回またいろいろ打合せしまして、最終的に出た我々の見直し案というものが、「市民が主体となり、緑とともに暮らせる、快適で安心安全なまち」という形に見直しました。

その理由につきましては、まず1つ目、多分先ほどもお話があったと思うんですけども、市からいろんな情報発信や周知徹底されるようになってほしいという思いがされています。

というのが、意見の中で、いろいろないい情報というのはあるんですけども、残念ながら、我々みたいに自治会の活動をしていると色々な情報入ってくるんですけども、一般に学生とか、一般の方々はなかなかそういう情報が入ってこないということで、やっぱりせっかくのいい情報を知らないもったいないので、その辺周知徹底してもらいたいと思います。

だから、こっちからインターネットを見れば分かるよとかではなく、もっといろいろなアピールをしてほしいなという思いがこもって入っています。

その発信された情報を受けて、やっぱり市民が活動して初めてそれが生きてくるので、そういうような活動にできるような内容にしてほしいというのが2つ目の理由です。

そしてあと3つ目で、市民という定義なんですけれども、市民というのは、当然我々住民票を移している市民もいますけれども、やっぱり府中には当然いろんな企業もあります。大学もあります。

ですから、市民の定義の中には在職者及び在学者も含めた、若い人の意見を市もどんどん取り入れて、快適で安全、安心に暮らせるまちにしてほしいなという思いが込められています。

それとあとは、この中に緑とともに暮らせる、やっぱり府中は、私も府中に越してきた理由の一つの大きな理由として緑です。府中の森公園、郷土の森公園、非常に緑がすばらしい。やっぱりそういう中で、府中も公園化が進んでいます。そういう面でこの中には公園、これも非常に大事なキーワードとなっています。

今、大分改修する工事が出てきているらしいんですけども、そのときは我々としてはやっぱり健康器具を入れるとか、使える公園にしてほしいと。つくって終わりじゃないんです。使って何ぼなんです。そういうのをみんなで楽しみ

ながら意見交換をいたしました。

あとは持続可能などという、このSDGsも持続可能なテーマなんだけど、それを削除した理由は、結局、持続というのは継続ですよ、我々としては継続だけではなく、より豊かな、若い皆さんが楽しく、より豊かな、バージョンアップですね、世の中も変わっていきます、変革していきます。

ですから、やっぱりそれに応じたより豊かなまちを目指す、ポジティブな意味であえて持続可能というコメントを削除しました。

やっぱりあとは、意見としては、市民に期待することというコメントがこの中に入っているんですけども、我々、これ抽象的な内容であれなんで、もうちょっと具体的に分かりやすいコメントを入れて、市民の方も、あっ、そういうことかと、やっぱり市民と協働ね、高野市長もおっしゃっている市民協働、市と市民ね、我々が文句ばかり言うんじゃないで、我々が言うからには活動する、みんな一体となって安全で安心して楽しい、やっぱり人生楽しくないと。特に自治会とかボランティアは楽しくないと続きません。給料出ないですからね。ということでやっていきたいと思えます。

そういう面では、私一番では、コミュニケーション、やっぱり災害とかいざ有事のときに自助、共助、共助で大事なのはコミュニケーション力の向上なので、そういう面では自治会やボランティア活動を通じて、災害時にみんなで協力し合いながら、支える関係構築をつくってと思えます。

最後にちょっと一言お願いします。

○生活・環境部会（村元氏） このような最初、基本目標を市民が主体となりとあるんですけども、市民やこのような場を設けていただくことで、市民が主体となり、今後も府中市がよりよいまちになれたらいいなと思えます。ありがとうございました。

○文化・学習部会（西郷氏） 文化・学習部会、よろしくお願いいたします。

まず、私たちの団体は、今回この会に参加して思ったことが2つあります。

まず最初に、この会を一度通して、こういった資料が、これから提出させていただく資料があるんですけど、市民にあまり情報が知られていないところが1つポイントです。

そもそもこの会議自体があまり市民に知られていないんじゃないかというところも実はございまして、情報発信ということが知らない言葉とかも結構あって、難しい状態になっているのかなというふうに思いました。

あとは、行政が考えている、皆さん考えてくださっている提案だったりとか業種が減って、昔のまま、そのまま今移行されているという感じがありまして、今回コロナがあつたりとかして、今の時代これからいろんなことが起きてい

く中で、その時代対応していかなきゃいけないことがあるんですけども、それに沿ったことができているということが、今回この会を通して知ることができました。

それに対して、今まで私たちが提案をしていただくのは、まず、今回基本目標のほうを目指すんですけども、「人とコミュニティをはぐくむ文化のまち」というのが最初の基本目標だったんですけど、我々の見直し案としては、「文化・学習」～多様性を認めあい進化し続けるまち～という提案しました。

これはどういうことからそうなったかといいますと、まず、これからいろんなことが起きていく中で、いろんな時代が変化していく中で、それに対応していけるようなまちづくりをしていかなきゃいけないなということが1点。

あと、コロナ禍で情報発信、インターネットの情報、教育関係もインターネットを使った教育をやるなり、習っているとか、いろいろしなきゃいけないところがあったりとか、対応できていない人たちも多いという意見、考え方もあって、その対応していけない人たちの中にどうその人たちを取り込んでいくのか、一人も取り残さないようにしていくかという多様性をしっかり認め合っていないといけないんじゃないかなというふうに思っています。

今後の会議では、「多様性を認め合い進化し続けるまち」ということで、多様化していく行政をつくっていきながら、しっかりそれに取り残された人たちにも対応していけるように、ちゃんと多様性を認め合っていけるまちづくりがこれからできていけばいいかなと思っています。

その中で、数値だったりとか目標値をちゃんと表示して、その情報発信をするなどして、これから検討していただければいいなというふうに思っております。よろしく願いいたします。

○都市基盤・産業部会（廣瀬氏） おはようございます。都市基盤・産業部会から報告、御説明させていただきます。

私たちの部会では、特に都市基盤と産業ですけども、これまでの基本目標は、「人を魅了するにぎわいと活力のあるまち」というのがテーマになっていたんですけども、見直し案では、3つのテーマを主に入れたキーワードにさせていただきます。

「安全でうるおいとつながりのあるまち」、1つ目の「安全」ですけども、都市基盤、産業を考える上で、近年の水害ですとか、災害の発生状況を鑑みますと、この安全というキーワードがまずベースにないと、それ以外の産業も含めてなかなか達成していかないだろうという話が皆様からありまして、この安全は災害だけじゃなくて、バリアフリーも含めた安全・安心なまちづくりを

引き続き進めていただきたいという思いからキーワードの1つ目に選ばせていただきました。

2つ目の「うるおい」ですけれども、にぎわいと活力については、生活面と精神的な豊かさが大事になるという話から、水と緑のまちからイメージをずる潤いと農業、商工業の活性化というところで潤うというところから、2つのキーワードを掛け合わせた形での言葉として、平仮名のうるおいという言葉を使わせていただいたということをお話しさせていただきました。

3つ目のキーワードが「つながり」ですね、これもほかの部会でも今までお話はあったかと思うんですけれども、人と人、地域間、あと我々の部会では交通のネットワークの話もございましたので、そのつながり、商店街とかお店同士のつながり、お客様とのつながり、あと一番問題になっているのが、創業もそうなんですけれども、事業継承、事業承継ですね、いかに今元気なお店を次の世代につないでいくかというところも、今後大切な視点になるんじゃないかという話がありました。

そして、産業と大学とのつながり、産学連携ですね、市民協働、あと農業の話も我々の部会のテーマになっておりましたので、地産地消といった視点も含めたつながりというところが今後、大変大事になってくるんじゃないかというところで、つながりというキーワードをさせていただきました。

以上の3つのテーマのほかに、私たちの中で議論で大きいポイントになったのが、これからは公共空間を含めた都市基盤をいかに市民や民間事業者の方が活用していくかという視点も大事になりますというふうな話がありましたので、維持管理のキーワードのところにも利活用という言葉を手新たに入れてさせていただきました。

最後にですけれども、これらの目標を実現していくために、伝統も大切ですが、次世代を見据えて新しく挑戦する総合的なまちづくりを市民はもちろんですけれども、市の職員の方々もわくわくするような形で実現していただけたらいいんじゃないかという話が皆さんの中で話がありました。

市の独立性を見いだせる前向きで挑戦に値するといった政策資料みたいなものもぜひ提示いただいて、市民と市の職員の方が連携して施策の実現に向けて総合計画を実施していただけたらいいんじゃないかなという話になりました。以上です。ありがとうございます。

○行財政運営部会（小西氏） では、行財政運営部会のほうから報告をさせていただきます。

皆さんのお手元のほうには、お渡ししましたけども、あまりありませんので、こういうような紙をそれぞれの分野ごとのチームにお配りをさせていただい

ております。こちらで一応報告をさせていただきたいと思っております。

こういう一つの問題、最初の1、2、3のところ、社会情勢、適切な目標管理、それから市財政の健全化、こういったようなことが本来の目的でもあるでしょうし、これがなかなか実際の実務の中ではうまく具合にいかないのかなということで、こういった形のをやらせていただいております。

うちのチームは、新しい基本目標の検討は求められてはいないんですが、今4分野のところそれぞれ出た中では、特に出ていない言葉として「市民協働で市政運営を推進」、こういう言葉を入れたらどうかと。

せっかく市民協働という言葉をあちらこちらで本来使っていますし、これからいろいろな形が出てくると思いますが、一番頭のところでそういう市政、市民協働というワードを出すことがより次の総合計画らしきを出せるのではないかということの提案でございます。

○行財政運営部会（鹿野氏） ありがとうございます。では、私のほうからお配りした紙のまず、5番なんですけども、施策79、長期視点に立った公共資産の維持・活用というところについてお話しさせていただきます。

今ちょっと府中市では、公共施設が老朽化等ありまして、改修等の予算がかなり必要となっていて、そのスケジュール等がなぜか立っていないということで、その課題があるということなんですけども、そこに対して、改修する際にもこれからちょっと2番の適切な適正な目標管理というところにあるSDGsの目標のそこにもあると思うんですけども、省エネルギーとかを意識した改修とか、そういうスケジュールの組み方をさせていただきたいというような案が入ってありまして、今後、公共施設の在り方として、施設ありきの市民サービスとかではなく、市民からのニーズに合った柔軟な施設を環境を整えるというようなつくり方とかもしていただきたいと思いますという話がありました。

続いて、6番の適正なコミュニケーションについてなんですけども、施策76、広報活動、情報公開の充実という点で、情報弱者の方、いわゆる高齢者の方とかも提供する手法は多岐にわたっているんですけど、受け取る側がなかなかその部分を理解できないとか、その機会がないということで、市側としてもそういう講習会などの機会を提供していただければなと思います。

あと、広報紙とか、文字も多くてなかなか必要な情報が分かりにくいというところで、新しいQRコードなんかにも分かりやすくしていただければなと思います。以上です。

○行財政運営部会（西郷氏） ひとつ具体的にシステムを使って、コロナの時代、どういうふうにするか。例えばですが、独居での高齢者の方がいます。そのところに情報を伝えるというのは非常に難しいんですが、そこに例えばタ

タブレット端末を渡すのではなく、システムとして送るんです。そうしますと、タブレット1台あることによって、センサーが置けるんですね。歩いている、家の中で活動している、お風呂に入った、おトイレに入られているとか、冷蔵庫を使っているとか、扉を開けたって、センサーをつけることができることによって、今活動されているのかどうかというようなアラーム、そういうものです。

そうしたら、アラームが出たら、例えば包括さんで、通常の状態であるとか、そうでないかというのが非常に的確に分かる。この仕組みというのは、弱者だけではなくて、例えばセンサーの上に手を置いていったら、それは体温が分かるとか、心拍数が分かるかという健康状態の管理もできる。

いざというとき、こういうふうにお楽しみいただけるということはコミュニケーションができるということなので、プライバシーを侵さずにコミュニケーションを取るツールになっていく。で、非常時にはそれを伝えることができるから、それが外国人の方だったら外国語でできるというような仕組みもできるんじゃないかというような捉え方をしました。

○行財政運営部会（小西氏）3人で説明させていただきまして、ありがとうございました。

○高野市長 新たな未来を拓く府中市総合計画を策定するに当たり、市民検討会議の57名の皆様方に、8月の8日から本日まで3か月も満たないこの期間に6回もの会議で、しかも前回まで出席率94%というふうに承っております。今日も恐らくそれ以上なのではないかと思いますが、コロナ禍で、そして8月は猛暑、9月、10月の前半までは長雨、様々な障害がある中にもかかわらず、熱心に御議論いただいたこと、まず、心から厚く御礼を申し上げます。

そして、今私、何げなく左手に5つの部会の皆さんから頂いた報告書を持っておりますが、それぞれの部会を代表する方々から先ほど受け取ったときに、何て重みを感じる報告書だろうと感じたのも、これが本当に率直な感想であります。

健康・福祉、生活・環境、文化・学習、都市基盤・産業、そして行財政運営、どれも、どの分野も極めて重要なものばかりでありますけれども、でも共通して皆さんから頂いたこと、それは誰もが幸せになるんだと。そのためには、多様性を認め合って、そして府中市内にもたくさんのそれぞれいろいろな得意分野や、あるいはそれぞれの分野に直接関わっている方々がいらっしゃるの、そういう方々とつながっていくということ、それが大きな輪になって、市民だけではなくて、いわゆる住民票がある方だけではなくて、府中市で働く人、



学ぶ人、産官学がよく言いますけど、そういうこれまでの範囲にとどまらない多様なつながり、これをさらに進めていくことが大切だということを学びました。

また、発信力、これがもしかすると、どちらの自治体もそうかもしれませんが、府中市にも職員は何となく一生懸命、広報だとか、あるいはホームページとかで発信しているつもりですが、それがなかなか市民の皆さんに直接伝わらないということ、どなたかがおっしゃっていましたが、変化を恐れずにとがった政策をもっと打ち出してもいいじゃないかと、市の職員の皆さんも、日頃、政策を考えたり事業を展開している中でいろんなことは想像していると思うんです。

こんなのどうだろうと考えてアイデアを出していると思うんですが、それは実際にどこまで事業化することができているか。もちろん財源というものがありませんから、あれもこれもはなかなかできませんけれども、しかし、私としては今日皆さんに頂いた意見の中で、やはりもっと発信力を強めていかなければいけないなということも、痛切に感じた次第であります。

そして、最後に、たくさんの今報告された5部会の方々、非常にコンパクトにまとめられましたけれども、それぞれの報告の中に大事なキーワードがちりばめてありました。

それを参考にさせていただいて、いよいよ来年の11月頃を目途に総合計画をまとめ上げていきます。皆さんから頂戴した意見が全て文字として反映できるかどうかは分かりませんが、全て計画の中に盛り込んでしっかりと、冒頭申し上げましたように、府中の未来を拓いていきますので、これからもぜひ府中市政に対して、またこの総合計画を立ち上げていく、その過程において、様々な御意見と、そして御指導を頂ければ大変ありがたいと思います。

もう言い繕いはしません。もう感謝と、それからこのどっしりと重たいそれぞれの御意見を頂きましたので、本当に心から感謝を重ねて申し上げまして、挨拶といたします。ありがとうございました。

高野市長のあいさつ後、部会ごとに全6回の会議のふりかえりを行った。

### 3 その他

事務局から、全部会の内容をまとめた「見直し論点シート」等を、後日送付することを連絡した。

以上